

会 議 録

1 会議名

平成30年度第14回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成31年度地域活動支援事業について（公開）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成31年3月19日（火）午後6時00分から午後7時15分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
泉 秀夫、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、
小林克美、坂井芳美、田中美佳、田村雅春、町屋隆之、丸山朝安、
水澤敏夫（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶

- ・会議録の確認：竹内副会長、田中委員に依頼

議題【協議事項】平成31年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1「平成31年度地域活動支援事業 直江津区の採択方針等について」、
「平成31年度地域活動支援事業 直江津区 審査スケジュール（案）」に基づき説明

【青山恭造会長】

- ・説明に対し意見等を求めるがなし
- ・地域活動支援事業の審査スケジュールは参考資料のとおり進めていくことで委員から同意を得る

次に【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.2「地域の課題の抽出について」に基づき説明

【青山恭造会長】

事務局の説明に対し、質疑を求める。

【町屋委員】

今回の意見交換会に出席して思ったことは、安心安全なまちづくりや住みよいまちというのは、観光と同じくらい大事なのではないかと感じた。

町内会長たちへ困っていること等を聞いてみると「少子高齢化は問題だ」という話が出たが、少子高齢化の問題は現場ではなかなか手が付けられないということだった。事例として挙げてきたのが孤独死や空き家である。空き家対策について問題なのは分かっているが、対策やルートが決まっているものを、この場でどうにかする話ではないと思っている。

少子高齢化について問題になっているが、漠然としたものしかなかったように思う。では、生活していくためにはどうするのか。分かりやすく言えばイトーヨーカドーがなくなる。生鮮食品や衣料品をどこで買うのか。それをどのようにしていったら良いのか。昔からあるのが、ワンコインバスやワンコインタクシーとかそういう部分や補助の部分が膨らまなかった。皆さんはどう思うか。

【増田副会長】

いろいろな問題があったが、時間が限られていたので深掘りができなかった部分がある。少子高齢化については皆さん困っているが、どういうことに対して困っているかと

いう観点で考えていくと、いろいろ細かい点に至るまで問題がある。資料No.2に「見守り活動の担い手がない」とあるが、これも少子高齢化の一つの現象である。「民生委員のなり手がない」ともあるが、民生委員のお世話になる人はどんどん増えている。

深く考えていけばいろいろな問題が出てくるが、困っている人に対してどうするかということを考えていかないといけない。高齢化を止めるわけにはいかないし、少子化を止めることも大胆に取り組んでいかないと難しい。

少子高齢化については、一度、どこかで深く考えていかななくてはいけないことだと思っている。

【伊藤委員】

意見交換会で出された意見を資料にさせていただいているが、意見を出しただけで、自分たちの町内をどうしていこうかということは誰も訴えていない。中には地域協議会へお願いできないか、ということ saying 言っていた人もいたが、それは筋が違う。資料のような課題があるのなら、その課題に対してどうするのか。観光に対しても意見が出ているが、言っているだけでは何も前に進まない。

【田村委員】

意見交換会の当日、五智の人とお話しさせていただいたが、五智公園や海浜公園の整備で何かあれば地域活動支援事業で是非提案してくださいとお話しした。提案していただければ採否は別としても意見は伺いたいと思っている。ただ、雁木の問題が出た時、段差や土地の高さ等について市で大枠を決めてもらえれば、将来、平らになる可能性も出てくる。いろいろな解決策があると思うので、そのことも含めて町内会長へ提案させてもらった。

意見交換会全体としては大成功だったと私は思っている。

そして、少子高齢化の問題については上越市は医療費を高校生まで助成したりと、一歩踏み出している。十分努力していることを認めたい。

【泉委員】

資料No.2に「暮らし」の部分に「一部の町内会を除き、地域全体として高齢化や少子化が進んでいる」とあるが、「一部の町内会」には少子高齢化の問題がないということか。

【田村委員】

東雲町である。東雲町は子どもの数が多い。

【青山恭造会長】

東雲町はアパートが何棟か建ち、一気に人口が増えた。

【泉委員】

結局、コミュニティの話なのではないか。

【竹内副会長】

20数年、町内の見守りをを行っているが、活動団体の構成員の半数が80代になってきており継続が困難になってきている。東雲町2丁目は子どもの数が増えているが、東雲町1丁目のほうは高齢化が進み、一人暮らしが多く、空き家のような状態が多い。

東雲町は870世帯ほどあるが、そのうち約200世帯がアパートの住民である。

皆さんはうまくやっていると思うかもしれないが、1丁目と2丁目は環境が違い過ぎており、今後に備えて体制作りをしていかないと、さまざまな面で温度差が出てきてしまう。1丁目の人は子どもが減って、お祭りの時の手伝い等も困っている状況である。

【伊藤委員】

世帯数が増えてくるといろいろな弊害が出てくる。やはりスタートが肝心である。私の町内では3つのグループに分かれて見守り活動を行っているが、1グループ目は女性二人で一組になっていただき、それを4組作り1週間に1回、回ることになっている。2グループ目は青年会のOBが午後6時半から警戒や防犯を兼ね、パトロールを行っている。3グループ目は日中、学校の登下校の際に見守りを行ってくれている。この3つの組織で15年間活動してきている。

町内が大きくなってからどのようにするのかではなく、早いうちからやっておかないと難しくなってしまう。

【泉委員】

アパートが多いとコミュニティが出来づらく、伊藤委員の話のような取り組みは難しいのではないかと。

少子高齢化については地域協議会がどうにかできるという話ではない。昔は70代と聞くとかなり年寄りだと思っていたが、今は70代でも元気の良い人がたくさんいる。そういう人たちから活躍していただけるような体制を考えないといけないのではないかと。

【町屋委員】

見守り活動をされている80代の方々から、もう勘弁してくれないかと言われればそれまでであり、そこまでの負担を掛けるわけにはいかない。だが、元気な方々はたくさんいて、国で言うところの有効に活用できる人材はたくさんいるが、活用する術はどう

したら良いのか。80代の方々に動いていただくのではなく、70代や60代くらいの人に動いていただきたいという話になると、60代の方は仕事をしていて家に居ないということがあがる。そして、40代は人数自体が少ない。

いびつな構図になっているからどこかに穴が出来てしまう。それをどうにかしようという話ではない。そういうまちでも快適に過ごせるまちというのは少ないところで助け合ったり、隣近所とのコミュニティをしっかりとしないといけない。ただアパートは少し違って、伊藤委員が言ったように最初から体制作りをしておけば良いが現状は難しいのではないかと。戸建てをする人は大体町内会へ入るが、アパートは広報上越も配らない地区もあるという話を聞く。なので、町内でのルール作りが必要なのではないかと。

【増田副会長】

自分たちのところは自分たちのところで考えてください、と言ってしまおうと何の解決にもならない。

どうしてこのような意見が多数出てくるのかということ、町内会長になられると皆さんこの問題に直面する。直面した時にどこまで深堀をしていくかということと、伊藤委員が言ったように、きちんとしているという町内もある。もし、私たちが出来ることがあるとすれば、自分たちの町内にこういう問題があり、ある町内では同じような問題を抱えているがうまくやっているということもある。同じようにやれとは言わないが、一つのヒントを得られるような場を作るということができるのではないかと。地域協議会以外でそういう場が作れるのかと言ったら、なかなか難しく町内会長だけを集めれば良いというわけでもないと思うので、その辺りに解決のヒントがあるのではないかと。お互いに助け合わなければいけないという泉委員の意見の中にもヒントがあるように思う。どうしたら良いのかということ、せっきやくの機会なのでお互いの共通認識として話し合っに行ければいいのではないかと。

【伊藤委員】

これから住民の数が減ってきて、町内会役員のなり手が減ってくるころからこのような話になるのだと思うが、行政も考えなくてはいけない一つのヒントになると感じた。例えばいくつかの町内会を一つにまとめたり、指定管理者という制度があるが、町内会もそういう制度を利用しなくてはいけない時代が来るのではないかと考えている。

【泉委員】

以前、市の創造行政研究所から港町の10年後や30年後の人口推移がどうなってい

るか推定してもらったことがある。減っていくことは確かだが、毎年一世帯入ってくると人口が止まる。そして、子どものいる世帯が入ってくると子どもの数も増える。それとは別に自分自身で計算したこともあったが、古城小学校の全校児童は40名ほどだが、世帯が半分になっても若い世代が増えれば増える可能性もある。

【町屋委員】

私の町内に新しい家が建ったり、引っ越してきたりしたという話は何十年と聞いていない。なので、毎年1世帯増やすことは大変である。

【泉委員】

私の町内は可能性があるかもしれない。高齢者の人数が増えるのではなく、割合が増えるだけである。若い世代は、土地があれば住みたいという方々が多数いる。あとは、土地を優遇してくれるとか、そういうところが一つの目安ではないかと考えている。

【田村委員】

私の町内も土地があって、駅も近い。スーパーもあるので可能性はあるかもしれない。

【小林委員】

後期高齢者の方々は、先ほど竹内副会長がおっしゃったように見守り活動等が大変だという話が出てくるかもしれない。だが、前期高齢者である65歳から75歳までの方々、いわゆる団塊の世代は多数いると思う。だが、私の町内では、その世代があまり出てきておらず、コミュニティの中にも入ってこない。団塊の世代がコミュニティに参加してくれればもう少し活気づくのではないかと考えている。

【町屋委員】

意見交換会で小学校の話になった際、ある町内会長が「1学年2クラスだったのが、1クラスになってとても快適になった、1クラスになると和気あいあいとしてみんながまとまってとても良い」とおっしゃっていたが、価値観の違いを感じた。もし、その中に居づらい子がいたら6年間、嫌な気持ちで通わなければいけない。2クラスあって入れ替わりがあるというほうが絶対良いだろうと思っているから、無理してでも2クラスにする方法が直江津地区にはあると思っている。直江津地区には小学校が4校あるが、4校のうち2校は1クラスしかない状態で古城小学校は複式になっている。小学校の話はタブーなのではないかと言う人もいるが、きちんと話し合いをしたほうが良いのではないかと。

ただ、最初は1クラスだったが人数が増えたので2クラスになった。だが、人数が減

ってきているので1クラスに戻すのもやぶさかではないと思っている。

【泉委員】

確かに町屋委員が言っているのは一意見としてあるのかもしれない。私は、複式学級を卒業された人と話をさせていただいたが、その人は、複式学級はとても良いと言っていた。

いろいろな意見があると思うので広く意見を聴いてみたいと思うし、駄目だと思っていれば何もできない。

学校の統合についてはとても難しい問題だと思っている。各地域に昔からの文化や考えがあるので弊害になってくるものが多い。今後、先を見通して地道に進めていかなくてはいけないと思うが、なかなか小学校の問題に手を付けたがらないので、それはまずいのではないかとと思っている。

【伊藤委員】

地区の町内会長協議会を脱退している町内会もある。アパートの人は町内会に入らないということもある。

【青山恭造会長】

以前、私が町内会長をやっていた時、アパートの管理人が町内会に入らないと言っていたが、町内会へ入ると防犯灯も設置できるし、地域の行事にも参加できる。地域全体が盛り上がれば土地の価値も上がってくると思ったので、何度か話し合いをして納得して入っていただいた。

【泉委員】

神戸は、阪神淡路大震災の後、一番活発でしっかりとした町内組織になっているのではないか。

【増田副会長】

町内会長は市からの配り物が多く、相当苦勞されていると思うが、行政は町内会長に頼りっきりになっている。これをどうにかしないと誰も町内会長をやらなくなってしまう。

【青山恭造会長】

配付物を配りながら見守りもしている。そういう捉え方をすれば良いのではないか。

【小林委員】

小学校の統合問題は13区の方が進んでいる。浦川原区の小学校も統合した。ところ

が、合併前上越市は変なこだわりがあり、何故なのかとってしまう。

【青山恭造会長】

新聞に保育園の統合について議論しているという記事が載っていた。

【磯田委員】

いろいろな意見が出ているが、町内会長との意見交換を受けて、これから直江津まちづくり構想をどのように進めていくのかというのは、相変わらず議論されない。

資料No.2の左側の下に「(3) 今後の協議の進め方について」の「②」に「町内会長との意見交換を実施」となっており、次に「③課題に対する現状把握を行う」となっている。本日は、地域自治の話が多数出ていて、それをどうしていくのかというのは一つの大きなテーマだと思っている。結局大きく間口を拓けてしまうと、いろいろやろうとしてもなかなか進まない。あるいは、全体を統一したデザインを描くということもままならない。いつも課題の抽出だけで終わってしまう。例えば生活に密着したり、地域自治の在り方だったり、町内会を担う人たちをどうしていくか等のテーマにして、もう少し深掘りしていくことの議論を誰が、どのように行っていくか。地域協議会内で議論していくのか、町内の人たちにも入っていただき議論していくのか。皆さんはどう思うか。

【増田副会長】

初めて町内会長と意見交換を行った。資料No.2に記載されている課題が私たちの共通認識なのかと言ったら、必ずしもそうではない。なので、資料に記載されている意見に対して話し合いを行い、認識を深めてはどうか。その中で町内会に対してこういうことが必要なのではないかということが少しでも見えてくるのではないか。見えたことに対して、今後どのように進めていくかを考えていけば良いのではないか。

磯田委員が心配されているのはよく分かる。私たちの任期はあと1年ほどしかない。その1年の中で意見書を出すのかとなると、私たちの役割は意見書を出すことではない。地域の課題をしっかりと認識し、場合によっては、私たちは町内会長たちが出してきた意見に対して、こういうことを地域協議会で考えた、ということを経過としてお返しし、人数をもう少し絞って再度意見交換をするという進め方もある。その中で町内会長からは意見を聴いたが、一般住民からは聴いていない。これは重要なことだと思っている。以前から地区別に一般の人を対象に懇談会を行おうという構想があったので、その構想を実施したらどうかと思っている。それらを念頭に置きながら進めていってはどうか。

5月以降、地域活動支援事業の採択協議や諮問等の案件が入ってきて自主的審議事項を進める機会がなくなるので意見書を出すところまでいかないかもしれないが、地域の課題をきちんと認識しようというところからスタートすれば良いのではないかと。

【田村委員】

町内会長からいろいろな意見を出していただいたが、我々も共通認識を持つことになる。議論を進めていくとある程度の方向性が見えてくるのだと思うが、それを明確にし、町内会長へお返しするという方向性で良いのではないかと考えている。解決の方向性を出すことは我々の役目だと思っている。

【町屋委員】

町内会長との意見交換で出た意見を地域協議会の皆さんで摺合せする時間があって良かったと思っている。

【小林委員】

3月15日号で広報上越と一緒に第6次総合計画の冊子が配られていたが、直江津区に当てはまるものがあるのなら、課題解決にその冊子を参考にしても良いのではないかと感じた。

【伊藤委員】

確認だが、2日に分けて意見交換を行ったが、地元で意見交換を受けての話し合いを行ったほうが良いのか。

【青山恭造会長】

それは各地区の町内会長にお任せするが、できれば行っていただきたい。

【伊藤委員】

地元で地域協議会との意見交換会について話し合いをするのなら、意見交換で出た意見をまとめた資料等はあるのか。

【滝澤センター長】

資料No.2については地域協議会の資料として作成させていただいたが、地元で必要ということであれば町内会長へ送付させていただく。

【泉委員】

町内会長との意見交換会については、まず地元の意見を聴き、出た意見を受けて今後の進め方を協議していこうということだったと思うので、早急に何かをしなければいけないというわけではないと思う。

【田村委員】

私は、直江津まちづくり構想の中での一環として行っているの、出していただいた意見をたたき台として協議を進めていってはどうかと思っていた。

【町屋委員】

町内会長からいろいろな意見を出していただき、本日、皆さんからもいろいろな意見が出していただいたが、前に進んでいるのは確かである。長期的な部分と短期的な部分は分けて考えなくてはいけない。

【小林委員】

資料に意見交換会で出た意見が記載されているが、この意見をどの程度まで踏み込んで話し合いを進めれば良いのか。せっきく出していただいたのだから行政に繋げるのか。地域協議会として地域から聴いた課題をそのままにしておいて良いのか。

【田村委員】

意見交換会では、地域活動支援事業で提案していただければ採否は別にしてもいくらかでも受け付ける。鏡池を綺麗にしたいということも言っていたが、行政と相談をするというようなことも言っていた。

【町屋委員】

海浜公園の時計については、地域活動支援事業で提案するのも良いが時計を買うだけなら駄目である。海浜公園は市の公園であり、時計の設置を行政にお願いするためには町内会から要望してもらうのか。

【田村委員】

町内会長から要望することは可能である。

【増田副会長】

地域協議会の立ち位置は、町内会の個々の問題を扱うのではなく、地域全体の課題を扱う場である。個々の問題は町内会によって違う。海浜公園の時計については、まず、北部まちづくりセンターに相談していただき判断してもらえれば良いことである。

町内会長たちは問題があった時、どのように動けばいいのかということとは分かっていると思うので、必要以上に地域協議会が踏み込み過ぎるとあまり良くない。立ち位置をわきまえて進めていかないといけない。

【青山恭造会長】

提案の仕方のアドバイスが出来ればと思っている。

ほかに意見等はないので自主的審議事項については終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・次回協議会の事務局案：4月16日（火）

【青山恭造会長】

- ・次回協議会：4月16日（火）午後6時から

【増田副会長】

私から一つ提案があるが、4月から新水族博物館整備課が解散となる。所掌は教育委員会となり、教育総務課の担当になる。私たちは、水族博物館は教育施設でもあるが観光施設でもあると考えている。今まで新水族博物館整備課と非常に良い関係で話し合いを行ってきたが、今後は教育委員会の一つの部署でしかなくなってしまう。教育委員会ではいろいろな部署があるが水族博物館をそのほかの部署と一緒にされては困るので、教育総務課から来てもらい、私たちの思いを伝えていきたいと思っている。

そして、3月議会でも議論されていたがイルカの問題がある。そのことも含めてお話ししていただきたい。

次に屋台会館の使用料が無料になったのだが、あまり使われていない。直江津の資産であり、屋台も整備されている。そこを工夫して有効活用できたらと思っている。水族博物館がオープンして、また違った役割を与えられるような気もするので、その件についても関係課から来ていただき、私たちの思いを伝えながら一緒に方向を考えていきたいと思っているので、センターから関係課へ連絡していただきたい。

【滝澤センター長】

水族博物館や屋台会館については担当課へ伝え確認しながら進めていきたいと思っている。

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。